



Good News for Japan とぎのこえ

平成二十五年十一月一日発行
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

「自分が、自分が」病からの解放！

宮島 健一



皆さんには、「生きる喜び・希望」がありますか。様々な価値観があり、将来に明るい見通しがもてないこの時代、「生きる喜び・希望」などという言葉は、現実味を帯びないものかもし

れません。でも、私は四十年以上、この「生きる喜び・希望」をいただいで、日々、平安に過ごしています。

私は二十五歳になるまで、十五個所の転居を繰り返していました。第二次世界大戦時の疎開や、父の転勤等、様々な理由がありました。が、青年期になった私は、生きる喜び・希望を見いだせず、深く傷ついていました。

やがて、救世軍の小隊(教会にあたる)に通い、日曜日ごとに聖別会と呼ぶ礼拝を守るようになりました。日常生活で聖書を読むことが習慣になりました。すると、私が、「自分が、自分が」という「病」に侵されていることが示されたのです。「自分が第一。自分が良ければ、自分が楽しければ……」ということから解放されないう限り、真の生きる喜び・希望は見つけられないということに気づかされました。

わりに負い、その罰を受けて解決してくださった、ということを感じたのです。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネによる福音書3章16節)

神が独り子のイエスを犠牲にするほど私を愛してくださっている、ということに、心から感謝しました。

翌朝から、考えられないほどの気力が与えられました。自己中心的な自分から解放され、心がいやされ、回復され、生きる喜びが与えられたのです。そして時が経つほどに、この神に喜ばれる人生を送りたい、と切に願うようになりました。

それ以来四十二年、私は、北海道から九州に至るまで、救世軍士官(伝道者)としての働きに携わってきました。その間、宗教教師として、刑務所、少年院、拘留所、婦人矯正施設で奉仕をする機会が与えられました。拘留所では、聖書のメッセージをひと言も聞き漏らさ

まいとする人たちの真摯な姿に、感動を覚えました。孤独で苦境を訴える方々に、本当の幸せを与えてくださる方を宣べ伝えることは、大きな喜びでした。また、一年を通して、近隣の病院や施設、街頭生活者の方々の必要に^応える働きを続け、阪神淡路大震災やその他の災害被災地に駆けつけ、支援活動に従事しました。

「心は神に 手は人に」をモットーに、様々な困難を覚えている方の手助けをしながら、神の愛を伝える救世軍の働きの一端を担うことができ、心から感謝しています。

一回限りの人生です。「自分が、自分が」という病から解放され、自分を超える絶対者である神に喜ばれる生き方を探してみたいかがでしょうか。そうすれば必ず「生きる喜び・希望」を見いだすことができます。

一人でも多くの方が、私と同じように、「生きる喜び・希望」をもつことができるよう、祈ります。

(救世軍士官(伝道者))

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。

一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

〈インタビュー〉

神様は、ありのままの私を受け入れ、導いてくださいます



佐々田清子さん

救世軍には二十の社会福祉施設がありますが、その中の一つ、呉市にある児童養護施設「愛光園」で、副施設長として働いている佐々田清子さんにお話を伺いました。

—佐々田さんは、ここでの働きに就いてどのくらいですか。

佐々田 二〇〇五年からです。今年で八年になります。力の足りない者ですが、神様に導かれ、励まされて、奉仕させていただいています。

—佐々田さんは、どのようにして救世軍と出会い、神様を信じるようになったのか。

—ですか。

佐々田 私の家は、父の仕事の関係で転勤が多く、ずいぶんあちこち引越しました。尾道に住んでいたころ、母が近所の人に誘われて救世軍尾道小隊(教会にあって)に行つたのです。私は小学二年でしたが、母について行って大人の集会に出ていました。それが、キリスト教・救世軍との出会いです。父は戦前、神戸にいた時に聖公会の教会で洗礼を受けていました。

その後、父の転勤で四国に行きました。そこには救世軍の小隊はありませんでしたので、日本キリスト教団の教会に、家族全員で行っていました。

父の転勤の最後は神戸でした。私が信仰をもつたのは、その神戸に住んでいる時で、中学か高校の時です。当時の小隊長(牧師にあたる)が、丁寧に、よく聖書のこと、救いのことを教えてくださいました。

イエス様は、私の身代わりに十字架にかかって罪の罰を受けて死なれ、三日目によみがえって「死」を滅ぼしてくださいました。このことを信じるなら、罪を赦され、喜びと希望をもつて生きることができると言うことを知りました。

幼い理解ながらも、神様の独り子イエス・キリストが自分の救い主だということを感じました。

救世軍では、正式な信徒のことを兵士と呼びますが、私の家族では、母と私が救世軍の兵士になりました。

—クリスチャンになって、どのような変化がありましたか。

佐々田 私は生来、わがままで、自分のことしか考えられなかった人間でしたが、神様を信じてからは、人のことも思えるように変えられました。人に対する思いをもつことができるようになりました。自分のことを思うように、他の人のことも大切に思うということでも自分が生かされているのは、周りの人のお陰もあります。

救世軍の社会福祉の働き

一八六五年、貧しく、社会から見捨てられた人々への伝道を目的に始まった救世軍の働きは、その最初から物心両面の救いということを目指していました。人々が置かれていた悲惨な状況からの実際的な救助なくして、その魂を救うことは不可能だ、と考えたのです。そして、人々の多岐にわたる必要を満たすために、様々な社会福祉の働きを起してきました。

英国におけるパン、スープ、肉、コーヒの廉売から始まった活動は、食料や衣料の無料提供、簡易宿泊所の開設、アルコール依存症者のための回復支援活動と、その幅を広げていきました。また、刑務所教誨事業も積極的に起こない、刑期を終えた人々に宿泊所と仕事を提供する免囚保護ホームを開設して、彼らの社会復帰に力を尽くしました。女性や子どもたちの保護・養護にも取り組み、売春や人身売買の犠牲となった女性たちのための保護ホーム、親を亡くしたり育児放棄された子どもたちの養護施設、また未婚の母のための母子ホームや産科病院の開設などをおこないました。

一八九〇年には、救世軍の創立者ウィリアム・ブリスが「最暗黒の英国とその出路」を著し、当時の英国の社会の惨状を明らかにし、その解決策となる働きを提案しました。それらは、移民支援事業をはじめとして政府や人道支援団体に採用されました。

日本においても、一八九五(明治28)年に救世軍の働きが始められて以来、「釈放者保護所」(収容者の気持ちを傷つけないよう「救世軍第二社会事業部」と称した。後に「労作館」)の開設を皮切りに、献金を募つての火災被災者救援やインド飢饉救援、廃娼運動の推進、それに伴う婦人救済所(ホーム)の開設などを進めてきました。その他職業紹介所、少年保護事業、「児童虐待防止部」の設置と啓蒙運動、児童養護施設や保育所、アルコール依存症者回復支援施設の開設などをおこない、その時代の必要に応じて、バイオニア的な働きを担ってきました。

現在は、これらの働きを継続しつつ、介護老人保健施設(デイケア、訪問介護ステーション併設、特別養護老人ホーム、ケアハウスなど)、超高齢社会の必要に応える働きの充実に力を入れています。

いろいろなことが起こりますが、どんな時も、すぐ自分を振り返ることができるようになりました。そして、神様に赦された者としての歩みをしなくてはならない、と思わされるのです。そう思えることは、感謝だな、と思っております。

—現在、佐々田さんのご家族は？

佐々田 息子が三人いるのですが、上の二人は独立し、今は末の息子と主人と三人で暮らしています。子どもたちが小さい時は、皆、救世軍に行っていました。今は、特別な集会の時以外は、なかなか参加できなくなりました。

家族に信仰を伝えることの難しさを感じています。自分の信仰生活の足りなさを思いますが、祈りつつ、家庭の中で、クリスマスチャンとしての証しを立てていきたいと願っています。

—毎日の働きの中で、どのようなことを感じていらっしゃいますか。

佐々田 子どもたちと一緒にいる中で、いろんなことを教えられています。時には、寝る時、「さっさー、お祈りして」と言う子どもがいます。私



のことを子どもたちは、「さっさー」と呼んでいます。イエス様を覚えて祈る場が与えられていることを、感謝しています。ここにいる子どもたちが、いろいろな事を通して神様を知り、祈ることができる、心から願っています。

私は本当に小さい、足りない者で、
「私は、これでクリスマスちゃんかな」と思うこともあるのですが、神様はありのままの私を受け入れ、良しとして導いてくださっています。

—一緒に働いている方たちはいかがですか。

佐々田 最近、救世軍の二十の施設の施設長たちが集まって学びと交流の時がありました。出席した職場の施設長が、「クリスマスチャンの他の施設の方や救世軍の伝道者の方と、とても良い交流をすることができた」と喜んで報告されました。

そして、施設見学の時、信仰に裏打ちされた施設運営を見て、とても良かった、ということでした。救世軍が運営している施設の施設長として、いかに神様を信じていることが大切なのか、と思われたのかな、と感じました。

そのために、自分が大切な立場に立たせていただいたというこのことを痛感するとともに、クリスマスチャンが少ない中で、このような言葉を聞くことができて、とてもうれしく思いました。神様がどんな事も良きに導いてくださり、小さな歩みであつてもそれを祝してくださっている、ということを感じました。

—現在、好きな御言葉はどのようなものですか。

佐々田 新約聖書のフィリピの信徒への手紙四章一二、一三節の言葉です。
「貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であつても、物が有り余つていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべが可能です。」

神様に全く信頼して、導きに従って歩むことが、大切であることを教えられています。

—それでは、佐々田さんのこれからの希望・抱負をお聞かせください。

佐々田 毎週、主人と一緒に、救世軍の聖別会(礼拝)を守りたいと思っております。それから、ご用をさせていただける限り今の働きを続けていきたい、と願っています。

(救世軍呉小隊(教会)所属)



二〇一三年四月二十一日、呉小隊・聖別会で、愛光園副施設長の辞令が授与された(右から3人目)

救世軍の社会福祉施設

- 保育所**
 - 札幌市しせいかん保育園 (011-204-9560)
 - 桑園保育所 北海道・札幌市 (011-221-6630)
 - 菊水上町保育園 北海道・札幌市 (011-821-2879)
 - 佐野保育園 栃木・佐野市 (0283-22-4081)
 - 呉保育所 広島・呉市 (0823-21-4711)
- 児童養護施設**
 - 機恵子寮 東京 (03-3729-0357)
 - 世光寮 東京 (03-3381-0545)
 - 希望館 大阪 (0726-23-3758)
 - 愛光園 広島 (0823-21-6374)
 - 豊浜学寮 広島 (0823-68-2029)
- 婦人保護施設**
 - 婦人寮 東京 (03-3381-0992)
 - 新生寮 東京 (042-522-2306)
 - 大阪アベノ地下街救世軍カウンセリング・ルーム (06-6773-2956)
- 特別養護老人ホーム**
 - 恵泉ホーム 東京・清瀬市 (042-493-5161)
 - 恵みの家(ユニットケア型) 東京・杉並区 (03-3381-7243)
- ケアハウス**
 - いずみ(恵泉ホーム併設) (042-496-7575)
 - 併設：ホームヘルパーステーションいずみ
- 老人保健施設**
 - ブース記念老人保健施設グレイス 東京・杉並区 (03-3380-1248)
 - 併設：杉並区地域包括支援センター「ケア24 和田」
 - ブース記念ケアマネジメントセンター和田
 - ブース記念訪問介護ステーション ルツ・ナオミ
- アルコール依存症者支援施設**
 - 自省館(救護施設) 東京・清瀬市 (042-493-5374)
 - 男子社会奉仕センター 東京・杉並区 (03-5860-2992)
- 男子宿泊施設**
 - 自助館 東京・中央区 (03-5860-2994)
 - 新光館 東京・新宿区 (03-5860-2818)

救世軍バザー場 オープン 毎週土曜日 9～14時 中野富士見町(東京メトロ丸の内線)より徒歩10分
救世軍バザー場 江東出張所 オープン 毎週土曜日 10～15時 錦糸町(東京メトロ半蔵門線/JR)より徒歩10分
☆リサイクル品豊富! どちらも寄贈品受付、お問い合わせは 03-5860-2992 まで

クリトリ

ご住所

ご氏名

私の近くの救世軍を紹介してください。

キリスト教についてもっと知りたいです。

「ときのかえ」の購読を申し込みます。

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブレース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 勝地 次郎 (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈ケニア〉ショッピングモール爆破事件

9月21日、ケニアの首都ナイロビのショッピングモールが爆破され、外国人を含む67人の死亡者と約60人の行方不明者、また多くの負傷者を出しました(9月30日現在)。

事件発生直後から、救世軍は輸血提供をする赤十字の働きを援助するよう求められ、救世軍の信徒を含む約4000人の献血提供者に食べ物と飲み物を配ると共に、献血を待って夜を明かす人々に毛布を配布しました。同時に、ナイロビの救世軍の信徒たちは、人質になっている人々と、被害に遭った人々のために、徹夜で祈祷会をおこないました。

また、紛争収拾にあたっている兵士や救援活動に従事している人々へ、食事や飲み物の提供とともに霊的な事柄への対応もおこないました。また、現地の救世軍は、事件発生後から1週間ほど、24時間の支援態勢をとり、様々な要請や必要に対応しました。



〈日本〉東日本大震災被災地復興支援レポート(続)

9月中旬に、救世軍本部より、司令官勝地次郎中将夫妻、震災被災地支援事務局長、事務局長補佐が、米国S.A.W.S.O.の担当者スウォーツ氏を伴って被災地を巡回しました。宮城県の女川町・気仙沼市・南三陸町、岩手県の陸前高田市・大船渡市の各地で、これまでの支援に対する感謝を聞く中で、まだ復興には程遠い被災地の現状を視察し、今後の支援の可能性を探る良い機会となりました。



ポータルセンターで、南三陸町長と司令官夫妻

10月の終わりには、南三陸町の「さんさん商店街」に隣接するポータルセンターで、ミュージシャンであり、牧師の小坂忠氏が、復興支援無料コンサートを開き、童謡や懐メロなど、聞く人の心に響く音楽をもって被災地の復興を応援しました。また、11月中旬には、ニュージーランド・ウエリントン市にある救世軍の小隊(教会にあたる)のブラスバンドが被災地を訪問。南三陸町の志津川小学校やポータルセンター、「さんさん商店街」、そして女川町の「きぼうのかね商店街」で演奏することになっています。

救世軍とは

The Salvation Army

国際的なキリスト教会(プロテスタント)で、本部はイギリス・ロンドンにあり、世界126の国と地域で活動しています。1865年の創立当時から、貧困にあえぐ人々、搾取されている女性たち、仕事につけない人々、お酒のために身を持ち崩した人々、十分な世話や教育を受けられない子どもたちなど、社会的に弱い立場の人々の必要に応えながら、神の愛を伝えてきました。その結果、様々な社会福祉施設、病院がつくられ、学校が建てられて今に至っています。

現在では、国際的な協力体制の下、緊急災害支援、難民支援、開発途上国自立支援などの働きも積極的にこなっています。

日本においては、1895(明治28)年に救世軍の働きが始まりました。そして、廢娼運動の推進、女性や子どもの保護、職業斡旋、無料宿泊所、結核病院の設立、アルコール依存症者の支援、街頭給食など、その時々(とき)の社会の必要に応える働きをおこない、神の愛を伝えてきました。

現在は、45の小隊(教会にあたる)と11の分隊(伝道所にあたる)、2つの病院(ホスピス併設)、様々な社会福祉施設(3頁下参照)を通して働きを進めています。

ご協力を心から感謝し、下記のとおりご報告申し上げます。(2013年10月4日現在)

北海道地区	1,097,700
関東東北地区	2,218,300
東京東海地区	7,964,890
西日本地区	3,268,560
医療部	644,779
社会福祉部	1,945,718
士官学校	1,494,425
全国合計	18,634,372

(単位:円)

ときのこえ クリスマス特集号 2013
Christmas Light (12月1日発行)
 ★クリスマス・メッセージ
 ★インタビュー
 加賀清孝さん・秋山雪美さん夫妻(声楽家)
 ★信仰の体験談
 一色義子さん(恵泉女学園特別顧問)
 ほか
 ぜひお求めください! (1部100円)

感謝祭募金結果
二〇一三年

- 詳細は、救世軍本営 WCB 招聘事務局まで http://www.salvationarmy.or.jp
- 11月19日(火) 全席千円
浜松公演 午後七時開演
浜松市 アクトシティ中ホール
お問い合わせ...
浜松ブラスバンド
TEL 〇五三・五四四・五一〇
- 23日(土) 大人 千円 子供 五百円
宇都宮公演 午後一時半開演
宇都宮市 ときぎ青少年センター(アミックス)
お問い合わせ...
栃木県ブラスバンド研究会
TEL 〇二八・六五三・三九九
- 24日(日) (礼拝) 無料
東京・連合聖別会 午前十時
千代田区一ツ橋ホール
(日本教育会館三階)
- 25日(月)
東京公演 午後七時開演
杉並区・荻窪 杉並公会堂
S三千円、A二千円(指定席)
お問い合わせ...
WCB 招聘事務局
TEL 〇三・三三七・〇八八
- 26日(火) 無料
社会鍋とカポル「WCB.P. ロムナードコンサート」
東京・池袋 サンシャインシティ 専門店街アルパ地下一階噴水広場

ウエリントン・シタデル・バンド
 日本公演案内
 ニュージーランド・ウエリントン市小隊(教会)所属のブラスバンドで、今年、四度目の来日となります。今回は、左記の日程の他、東北被災地を訪問しての演奏もおこないます。

発行日 毎月一日・十五日
 定価 一日号一部五〇円(千六〇円) 十五日号一部六〇円(千六〇円)
 クリスマス特集号(十二月一日号) 一部一〇〇円(千六八円) 一年分二七〇円(送料七二八円)
 振替・〇〇一八・五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍 代表者 勝地次郎 編集人 齋藤恵子
 〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番一
 電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営
 印刷所 図書印刷株式会社

(取扱支部) 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

(この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません)